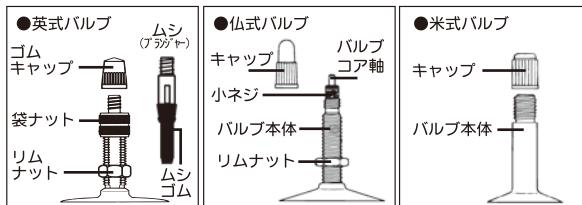


パンク修理 取扱説明書

ご使用前に

- ▼チューブの取りはずしや取りつけには必ず専用工具のタイヤレバー(別売)を使用してください。
※ドライバーなどを使用するとタイヤやチューブを傷つけます。
- ▼チューブのバルブ形式によって、取り替えかたが異なります。
ご使用中のバルブ形式(英式・仏式・米式)を確認してから各々の取扱説明に従って作業を行ってください。



安全上のご注意 (必ずお守りください)

警告

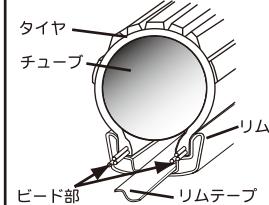
- タイヤ装着時リムに油やワックスを使用しない
走行中にタイヤがはずれて転倒の原因となります。
- 走行前にタイヤに異物が刺さっていないか点検する
パンクによる転倒の原因となります。
- タイヤの空気圧はタイヤに表示されている標準空気圧にしたがう
パンクによる転倒の原因となります。
- 子供など取扱に不慣れな方だけで使わせたり乳幼児の手の届くところで使わない
けがや誤飲の原因となります。

お願い

- 作業時にゴムのり、パッチは直射日光に当てないでください。
- 保管の際は直射日光の当たらない冷暗所で保存してください。
- ストーブなどの熱源の近くに置かないでください。
- パンク修理は応急的なものです。古いチューブは安全のため新しいものとの交換をおすすめ致します。

正しいパンク修理のしかた

車輪の各部名称



必要な道具

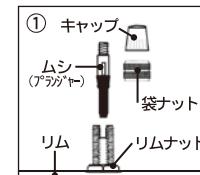


※タイヤレバー・ポンプは当社オリジナル製品をおすすめいたします。

チューブの取りはずしかた

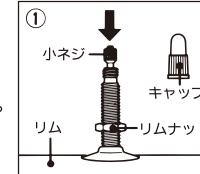
●英式バルブチューブの場合

- ①バルブのゴムキャップと袋ナット、リムナットをはずし、ムシ(プランジャー)を抜き、空気を抜いてください。
※以下②へ進んでください。



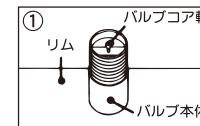
●仏式バルブチューブの場合

- ①バルブのキャップとリムナットをはずし、バルブコア軸の小ネジを緩め、軽く押し込んで空気を抜いてください。
※以下②へ進んでください。



●米式バルブチューブの場合

- ①バルブのキャップをはずし、右図のバルブコア軸を細い棒で押して空気を抜いてください。
※以下②へ進んでください。



- ②ビード部にタイヤレバーを差し込んで矢印の方向に倒してください。



- ※このときチューブを傷つけないように、タイヤレバーはビード部のみにかけるように注意。

- ③リムに沿って20~30cm程度、②の作業を繰り返しながらビード部をはずし、残りのビード部を指ではずしてください。



- ④片側のビード部全体をリムからはずし、バルブ部分を残してチューブを取り出します。



- ⑤最後にバルブ部分を図のようにリムからつかみ上げてチューブを取り出します。



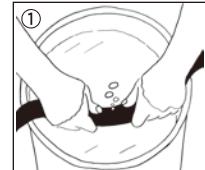
パンク修理のしかた

- ①取り出したチューブに空気を入れ水の中に入れてパンク穴をさがします。

※空気を入れ過ぎるとチューブが破裂しますので注意してください。

※バルブから空気がもれている場合はバルブの故障が考えられます。

英式/仏式の場合はムシゴムを付属の新しいものと交換してください。
仏式、米式はチューブを新品と交換してください。



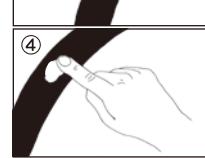
- ②パンク穴の位置を確認したらその部分と周囲の水分や汚れをよくふき取ってください。



- ③ゴムのりの接着力を高めるためにパンク穴の部分とその周囲(パッチよりも少し大きめ)を紙ヤスリでこすりぎらざらにしてください。



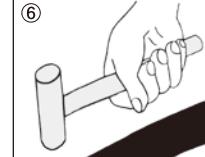
- ※こすり過ぎるとチューブを傷つけるので注意してください。
- ④こすりカスをきれいに取り除き、ゴムのりをざらざらにした部分に薄くのばしながらパッチよりも少し広めにぬってください。



- ※ゴムのりをぬる前にチューブの中の空気は抜いてください。
- ⑤ゴムのりをぬって約2~3分後よくゴムのりを乾かせてからパッチを貼ります。パッチは、ウラのアルミ箔をつまみ、透明フィルムを引っ張るとパッチがアルミ箔よりはがれます。



- ⑥パンク穴がパッチ中央部にくるように貼り、木づち等で軽くたたいて圧着します。



- ※この時、チューブを傷つけないように注意してください。

- ⑦最後に透明フィルムをゆっくりとはがしてください。チューブに空気を入れ、水の中に入れてパンク修理部分に空気もれがないかよく点検してください。点検後水分や汚れをよくふき取ってからチューブをタイヤに装着して作業は終了です。

